

## ■屯田北中学校の実践

### (1) 研究内容

ピア・サポート・プログラムを活かした豊かな人間関係づくり  
～ピア・サポート・トレーニングの全校実施を通して～

### (2) 学習活動を通して育てたい力

安定した自己肯定感と仲間に対する尊重を大切にしながら、それを支える基本的なコミュニケーションスキルを高め、豊かな人間関係の基礎となる「支えあう温かな関係性」を育み、意欲的に生活や学習に取り組もうとする心情や態度を育てる。

### (3) 実践の内容

#### 【実践①】校内研修体制の構築・教職員の指導力向上

##### ○ねらい

今年度は前年度の取り組みを踏まえて、ピア・サポート・プログラムに全校体制で取り組むこととなった。その円滑な実施のために、校内研修会での学習を中心としつつ、他校の実践紹介や校外での研修案内などを通して、校内研修体制を構築するとともに、教職員の指導力向上を図る。

##### ○実践内容

- ・ 4月 人権教育推進事業への応募  
「ピア・サポートの内容を活かした道徳の授業」年間指導計画提案・指導案集提示  
札幌市子ども未来局作成パンフレットを全校生徒に配布
  - ・ 5月21日 第1回校内研修会 研究の方向性の確認  
(研究の視点として「支えあう温かな関係性を育む学びあいの工夫」を設定)
  - ・ 7月1日 北海道通信で前年度の取り組みが紹介される。
  - ・ 8月16日 札幌市教育センター講演会(兼札幌市不登校対策連絡会議:研修部ほか5名参加)  
「いじめ・不登校を未然に防ぐピア・サポートについて」  
(講師:広島大学大学院・栗原慎二教授)
  - ・ 8月23日 夏の研修日 ピア・サポートについての研修会「ピア・サポートでつくる活力ある学校」  
(講師:岩見沢市立光陵中学校・木下浩太教諭)
  - ・ 9月6日 第2回校内研修会 特別支援教育に関する講演と事例検討「ケース検討会議のススメ」  
(講師:北海道教育大学教職大学院・小野寺基史准教授)
  - ・ 10月～3月 授業交流(互いに学びあう同僚性の構築)、研修図書コーナー設置(職員室入口)
  - ・ 10月15日 人権教育推進事業 上篠路中・ピアサポート公開授業参加(研修部より2名)
  - ・ 11月6日 第3回校内研修会 アセス(学校適応感尺度)についての学習と事例検討  
(講師:札幌稲雲高等学校・岡智哉教諭)
  - ・ 11月9日 ピア・サポート学会学習会「ピアサポートを学ぼう」参加(研修部より2名)  
(講師:吉田ゆかり本校養護教諭ほか)
  - ・ 12月12日 札幌市教委・人権教育推進検討プロジェクト 第一回推進会議
  - ・ 2月17日 第4回校内研修会 報告書案検討・実践資料集の提示(総括、次年度の方向性)
  - ・ 2月18日 人権教育推進事業 太平南小・道徳公開授業参加(研修部より1名)
  - ・ 3月3日 札幌市教委・人権教育推進検討プロジェクト 第二回推進会議
- \*その他、随時、研修部だよりでの情報提供、交流を行った。  
\*年度末には、現在の本校の研究主題「豊かな人間関係を築き、意欲をもって学びあう」や、現在行なわれている道徳、総合的な学習の時間、特別活動などとの関連で、来年度以降、本校の教育課程にどのように位置付けていけるか検討する。  
合わせて、研修部だよりでも情報提供する予定。

#### 【実践②】道徳の時間を活用した、全学年・年度を通じたピア・サポート・トレーニングの実施

##### ○ねらい

本校の生徒の実態を踏まえ、豊かな人間関係の基礎となる「支えあう温かな関係性」を育むために必要な、基本的なコミュニケーションスキルを習得させ、温かく居場所のある学校風土の実現を目指す。

## ○実践内容

学期	月	1年	2年	3年	
1	4	オリエンテーション「ピア・サポートについて」			
		トレーニング① 「あいさつで名刺交換」	トレーニング① 「あいさつで座席表づくり」	トレーニング① 「あいさつで名刺交換」	
	6 7	トレーニング②「自分ってどんな人？」(エゴグラム)			
		トレーニング③「話の上手な聴き方」(気のない・威圧的な・話しやすい)			
2	8 9	トレーニング④「プラスの言葉と マイナスの言葉」	トレーニング④ 「プラスのストローク」～夏休みの思い出		
		トレーニング⑤「すごろくトーキング」		トレーニング⑤ 「すごろくトーキング」 「キャリアアンカーを探せ」	
	トレーニング⑥「怒りの温度計」				
	11 12				
3	1 2	トレーニング⑦「プラスのストローク」～冬休みの思い出		トレーニング⑥「上手な断り方」 トレーニング⑦ 「友達の相談にのってみよう」	
		トレーニング⑧ 「上手な断り方」			
	3	実践①「新しい仲間のために」 ～後輩(新入生)にメッセージ (励まし・激励・アドバイス)を 伝える～	実践①「送別の合唱をつくる」 ～1・2年合同練習等で リーダーシップをとり、 気持ちを一つに3年生を送る～	実践①「別れの花束」 ～友人・保護者・後輩・先生に 感謝のメッセージを伝える～	
		1年の反省とプランニング			

## (4) 成果と課題

### ① 成果

今年度は、本校の研究主題「豊かな人間関係を築き、意欲をもって学びあう生徒の育成」の具現化を目指し、本校の教育課程にピア・サポート・プログラムを効果的に位置づける方策を探ってきた。研究2年目にあたる今年度は、年度当初からピア・サポート・トレーニングを、道徳的価値項目にあわせて道徳の時間に配置し、年間通して全学年で実施することができた。また、研究の視点として「支えあう温かな関係性を育む学びあいの工夫」を設定したことで、ピア・サポートの考え方を活かした交流のある授業が多く試みられた。



生徒の様子からは、他者を理解しようとする意識を高め、自己を認めてもらう喜びに気付き、トレーニングで学んだことを日常に生かそうとする姿勢が見られた。ワークシートには学習を楽しみつつ、その意義を感じながら取り組んでいることが伝わる記述が多く、今後も継続して取り組む価値のある学習であることが確認された。

教師の反応は概ね好意的で、積極的に学級通信等で成果を発信・共有する担任も多かった。外部から講師を招いて学習の機会を重ねたことは、教職員間の共通理解を図り、ピア・サポートを取り入れたコミュニケーション活動の良さを実感する上で、大変有効であった。先生方の声を集め、研修部だよりを通して周知・共有できたことも、成果の一つである。

### ② 課題

研修部が実施している生徒アンケートでは、自己有用感を問う項目「学級や班の中で進んで役割を果たしている」の結果が低いなど、数値として明確な成果が表れているとは言い難い。「自分の考えをみんなの前で発表すること」が苦手だと考える生徒も多く、そこから読み取れる自信のなさや対人関係への不安を緩和していくためにも、継続的な働きかけが必要である。今年度は、全校体制で取り組む初年度であり、学年の発達段階を考慮したカリキュラムを計画することが難しかった。今後、三年間を見通した学習活動へと発展させたい。また、年度の終わりに取り組んだ「1年の反省とプランニング」は、来年度の具体的活動計画を立てる上で重要であり、そこから生徒のアイデアを生かした新たな取り組みを企画し、実現できることが望ましい。さらに「ピア・サポート」の考え方を生徒に浸透させるために、年度当初のオリエンテーションで教師がしっかりとピア・サポートの考え方や必要性を語り、より安全で安心できる場所へと生徒が自発的に学校を変えていく意欲を喚起したい。

本事業が目指す「子どもが主体となる活動」へと改善させるために、さらに教職員が学習を深め、教育課程のあらゆる場面でピア・サポートの考え方を踏まえた活動を工夫していければと考える。授業における協同学習(学びあい)の充実や、生徒の変容をみとるアセスメントの工夫(ASSESSの活用)、さらには成果を地域に発信する機会の設定など、より創意工夫を重ねて、充実した校内研修体制を構築していきたい。